

保育所におけるアレルギー疾患の現状と対応に関する研究

福島 美貴 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金森 雅夫

キーワード：乳幼児，アレルギー，子どもの遊び

1. 緒言

現在、日本では約2人に1人がなんらかのアレルギー疾患を罹患していると推定されている。これは私たちを取り巻く環境が昔と比べて大きく変化していることやアレルギー疾患は遺伝の要因が強く、特に母親がアレルギー疾患をもっていると子どものアレルギー疾患発症率は高くなるということが分かっている。実際にアレルギー疾患をもつ子どもは年々増加傾向にあり、多くの乳幼児が生活する保育所にはアレルギー疾患をもつ乳幼児が多く在籍している。

そこで本研究では保育所でのアレルギー疾患の実態を調査し、保育現場の現状やアレルギー疾患児への保育所および保育所職員の対応について明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究は天津市にある3つの公立保育園の各園長と職員(A保育園:9名, B保育園:5名, C保育園:5名)に対して自記式のアンケート調査を行った。

3. 結果と考察

1) 保育所のアレルギー疾患の実態

3つの園全体の在籍人数は459人となりそのなかでなんらかのアレルギー疾患をもっている子どもは67人となった。この中には複数のアレルギー疾患をもっている子どもがいる。アレルギー疾患の割合を年齢別にみると、食物アレルギーを罹患している0歳児は17.2%となっており、他のアレルギー疾患よりも高い割合になっている。また1歳児と2歳児も同様に食物アレルギーの割合が最も高い。3歳児、4歳児は食物アレルギーよりもアトピー性皮膚炎のほうが高く、5歳児に関しては食物アレルギーとアトピー性皮膚炎が同じ割合(5.8%)だった。年齢ごとにアレルギー疾患の種類や人数がさまざまであることが分かった。

2) 保育所と職員の方針と対策

保育所や職員のアナケート調査では、食物アレルギー児への配慮や工夫が多く挙げられて

いた。食物アレルギーの子どもは重度な場合、触れただけでも皮膚吸収で重症になってしまうことがあり、道具の分別や席の隔離など職員間での注意や役割分担を徹底していることが分かった。他にも調理の手順や他のアレルギーに関しても、普段の保育から注意していることが分かった。

表 年齢別アレルギー疾患の人数と割合

	(単位:人)					
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
食物アレルギー	5 17.2%	4 6.3%	7 9.0%	6 6.7%	3 3.2%	6 5.8%
アトピー性皮膚炎	2 6.9%	2 3.1%	6 7.7%	9 10.1%	10 10.5%	6 5.8%
気管支喘息	1 3.4%	3 4.7%	1 1.3%	6 6.7%	4 4.2%	5 4.8%
動物アレルギー	1 3.4%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%
ハウスダスト	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.0%
保育園在籍人数	29	64	78	89	95	104

4. まとめ

保育所ではアレルギー疾患児が生活する環境や食事、道具など様々なものに配慮していることが分かった。また、研究を進めていくなかで環境整備以外の対策として、「子どもの遊び」にも着目した。アレルギー症状を発症させないような環境の整備や取り組みも行いつつ、アレルギーに負けない体をつくることも大切である。保育所だけでなく、家庭でも散歩や手伝いなど遊びを通した身体活動の時間を作ることによって子どもの健康と、保護者の運動不足の解消や親子のスキンシップを図ることができる。

これから子どもを産み育てていく人、子どもを教育する人が正しい知識や対応について学び、医者や地域などと協力していくことが、子どもをアレルギーから守ることにつながると感じた。子どもを取り巻く環境の整備や正しい知識、幼児の遊びの大切さを学ぶことができた。

5. 引用・参考文献

厚生労働省(2011) 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン. 厚生労働省
巷野悟郎(2012) 子どもの保健 第2版. 診断と治療社